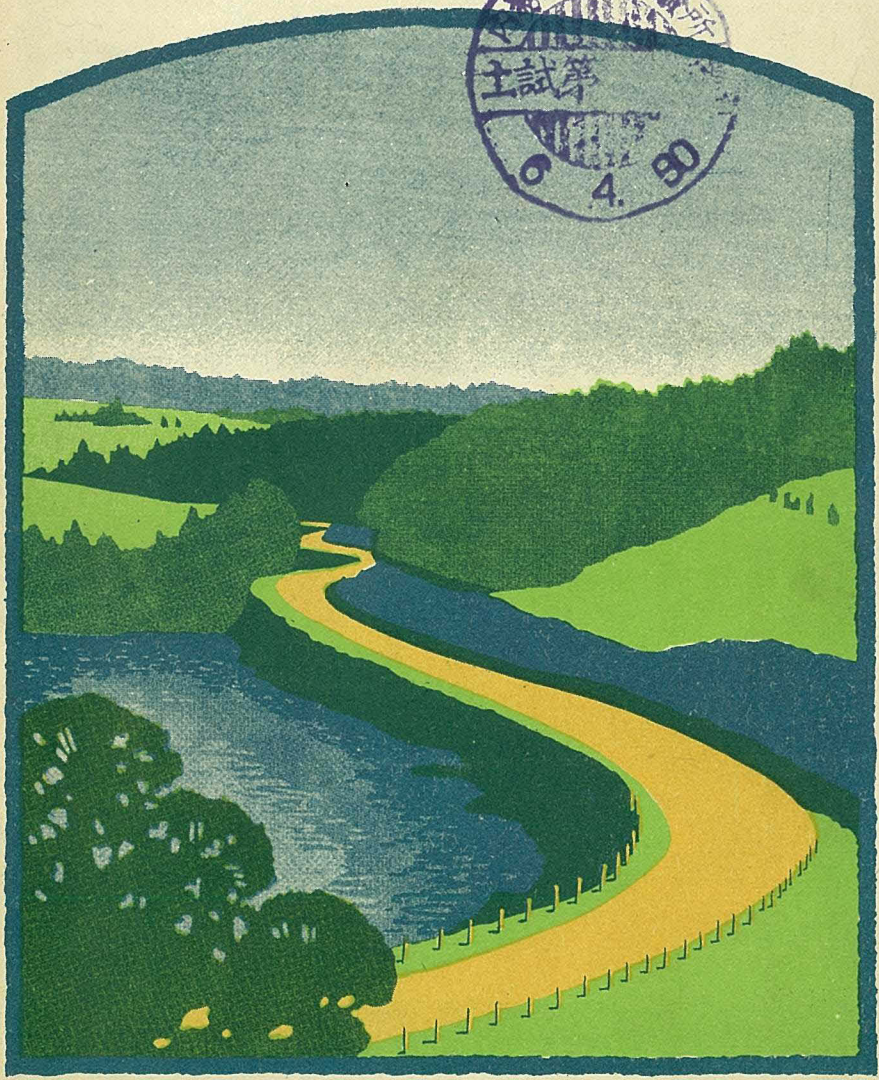
道路の改良

昭和六年三月二十五日印刷納本
昭和六年四月一日（毎月一回一日發行）

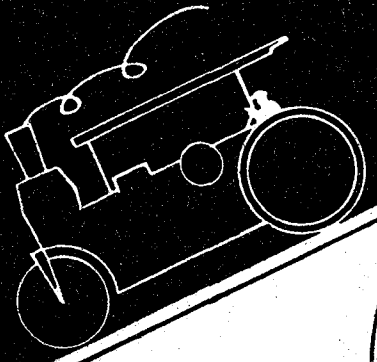
禁轉載



第十三卷 第四號

道路改良會發行

アスファルト鋪道界の明星



アスファルト其他各種道路及一般工事請負
特許ワーレナイトビチュリシック東洋一手施工
特許簡易鋪装　デップファルト　一手施工
各種石油製品・國産アスファルト製造販賣

日本石油株式會社道路部

營業所
東京・丸ノ内　三ノ四
大阪・西区江戸堀南通三丁目
下関・岬ノ町　七九
小樽・花園町東四丁目
台北・本町一丁目四三貯蓄ビル内
京城・南大門通八千代ビル内

前橋市高崎市間九號國道　延長 908.5m　幅員 5.45m　面積 4,951.32m²

ビチユマルス鋪裝工事（第五號工法）

材料內譯（車道用混凝土基礎上ニ施工）面壹百平米當

名稱	形狀	單位	數量	摘要
碎石	徑六粍以下	立米	〇、八	下敷用 厚八粍
〃	〃一八粍以下	〃	一、八	主骨材用 厚一八粍
〃	〃一二粍以下	〃	一、〇	厚一〇粍
〃	〃六粍以下	〃	〇、五	厚五粍
荒目砂		〃	〇、五	表面仕上用 厚五粍
ビチユマルス		リットル	八二〇、〇	平米ニ付撒布注入（下塗一〇、〇 第一回三、〇 第二回三、〇 第三回一、二）リットル割ノ
施工費		平米		施工手間一式
輾壓費		〃		輾壓費一式
雜費		〃		雜費一式
計				

日本ビチユマルス株式會社
關東總代理店

日本 **ビチユマルス鋪裝工業** 株式會社

東京丸ノ內仲通三菱五號館
電話丸ノ內(23)〔長四八二九番 四九二八番〕
專務取締役　馬渡操

道路の改良　第十三卷　第四號　目次

昭和六年四月一日發行

口繪

竣成した千石橋（奈良縣）

巻頭言……（二）

論說

道路と自動車税……道路改良會評議員　藤原俊雄（三）

研究

古代交通陸線の研究の必要……長谷川久一（一三）

道路費負擔論に就て……岡崎早太郎（一九）

助郷村の話……京都帝國大學經濟學部　和田篤憲（二九）

技術

道路鋪裝の新傾向（二）……內務技師　岩澤忠恭（三六）

タール鋪裝に關して……內務技師　三木榮三（四三）

海外道路時事

英國交通委員會の報告摘要……內務省土木試驗所長　工學博士　物部長穗（五四）

高層大車庫……露西亞の道路改良近況……白耳義の運河橋

紹介

吾妻橋改築工事概要……元東京市技師　有元岩鶴（六二）

漫錄

英國の誇り……內務技師　藤井眞透（八三）

幸橋物語……五十子恭三（八七）

五十九回帝國議會を覗いて……一記者（九二）

通信

歐米所々（完）……東京府土木部長　來島良亮（一一九）

英國に旅して……內務技師　藤井眞透（一三五）

地方通信

北海道方面……（一四〇）

北東方面……北陸方面……關東方面……東海方面……近畿方面……中國方面……九州方面

法令

國道改良工事實施設計調製に關する件通牒……（一四七）

失業救濟の目的を以て施行する國道改良工事に關する件……失業救濟の目的を以て施行する國道改良工事

行せらるゝ國道改良工事に關する件……失業救濟の目的を以て施行する府縣道改良工事に關する件

の地方分金に關する件……失業救濟の目的を以て施行する府縣道改良工事に關する件

失業救濟の目的を以て施行する府縣道改良工事に關する件

雜報

內務省土木出張所長會議開會……（一六一）

第二回全國都市問題會議に於ける諸問題……宮城縣下阿武隅川架橋起工式……幹事會

叙任辭令……（一七〇）

編輯室の內外……（一七二）

アスファルト

の御用なら

先づ

淺野物産へ

道路鋪裝工事請負
防水工事請負
ルーフイング類販賣
アスファルト販賣

舶來　ユニオンアスファルト
國產　小倉アスファルト　總代理店

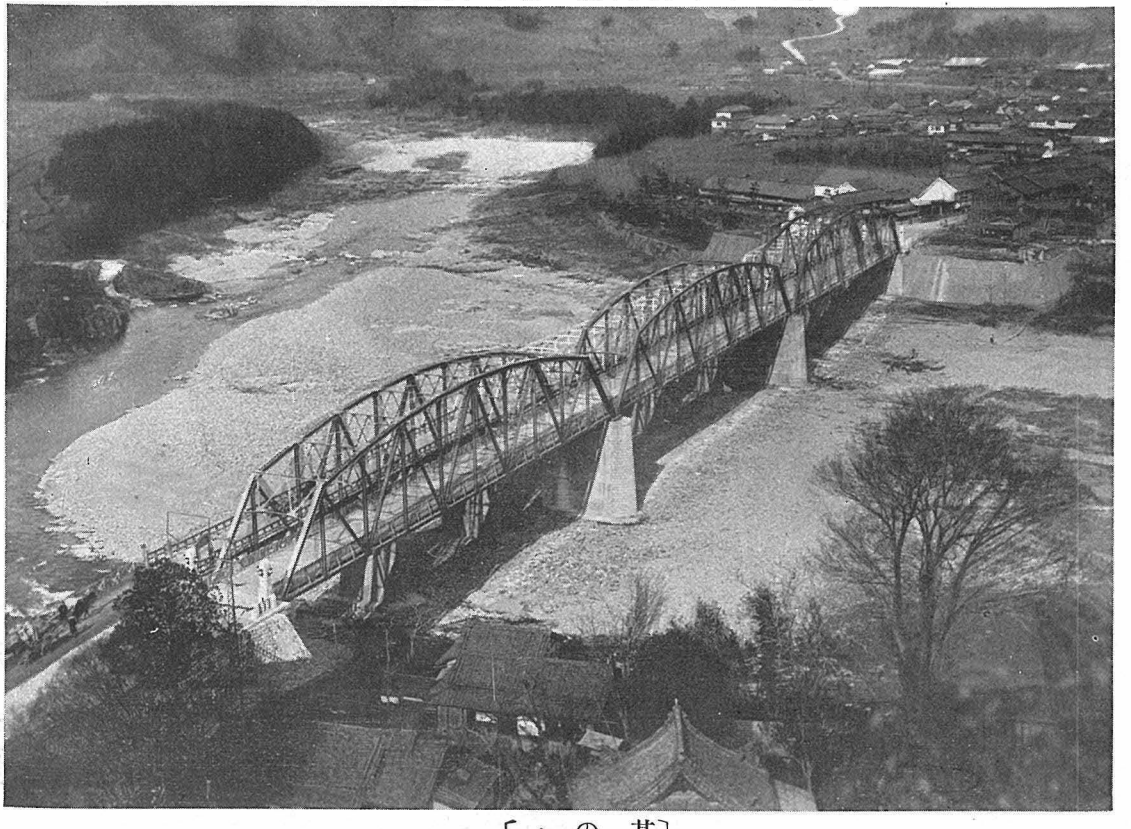
淺野物産株式會社アスファルト部

東京市丸ノ内一丁目六ノ一海上ビル六階
電話丸ノ内二五八〇——二五八九

混凝土目地材
國產アサノエラスタイト
舶來カレーエラスタイト

竣成した千石橋

府縣道下市御所線・吉野川清流の俯瞰



〔其の一〕

側面

「地方通信」欄參照

義經千本櫻で有名な奈良縣吉野川に架けた千石橋

〔其の二〕

正面

「地方通信」欄參照

昭和六年

道路の改良

四月一日

第十三卷
第四號

卷頭言

第五十九回帝國議會も、首相代理問題やら代理者の失言問題やらで騷いで居る間に經過した。併し論戰の跡を眺めて見ると、言ふべき多くの問題が與へられてゐる。濱口首相が自發的か他動的かは知らないが、兎に角重症を忍んで議會に臨んだことは、情に燃ゆる全國民をして同情せしめた。野卑な政友會に於てさへ、情的態度に出たことは吾人之を諒とする。併し翻つて冷靜に考察すると、痛々しい體を議會に運ばなければならぬのも、矢張り政權維持乃至は政爭の爲であつて、之が爲には尊ぶべき人生を犧牲にするも厭はないと言ふ非人情的根性の潛在が窺はれ、吾人をして政治鬪爭を嫌厭ならしむと共に、之を敢行した民政黨諸士に人情の存否を疑ふのである。

夫れは兎に角、此議會に於て多くの重要案件が附議された。其の一面は内閣安定の齎した一つの表はれと言はればならぬ。蓋し政界不安定なときは唯だ爭の爲の議會であつて、目的は爭の爲にあるを常態とする。昔時政友會内閣が明治大正の時代に亘つて國家の大計を樹てたのも、矢張り内閣が安定してゐたからであつた。今議會も此濃度を推知することが出來る。併し在野政友會も少數黨とは言へ、善戰奮鬪して二百七十の頭顱を引きづり廻したことは、其の鬪爭の上手になつたことを賞揚する。併し國民生活に直接の關係ある重要法案が成立しなかつたことは、與黨民政黨の無能愚鈍と、政友會の小數横暴に依るものであつて、吾人は既成兩黨に對して其の非を攻めるものである。

重要案件の中で通過した失業救濟道路改良事業は、其の手段方法に於て兎角の非難を蒙つたが、現世想に鑑ろときは何人と雖之を否認することを許さない問題で通過したことは、當然事とは言へ吾人の頗ろ滿足する所である。併しながら之を正常に執行して失業者を救濟するの實を擧げ、國道改良の經濟價を收むると否とは、此後に於ける政府當局の措置如何にある。若し世上傳稱せらるゝが如く、今秋行はるべき府縣會議員の選擧に利用するあらんか、政府が非募債主義破綻の非難を受けて迄計畫した本事業目的を根底より破壊し、政爭の爲に路政を弄ぶの非難を受くるや必定である。世に所謂重要政策を實行する能はざるに至りたる現内閣が、せめても置土産として本事業の執行に忠實ならんことを切望して已まない。夫れと同時に國民は此後に於ける政府の態度を監視する必要がある。